

144 保栄茂タルチー(二)

(仕事は弁当)

保栄茂タルチーの兄弟同士がある時、しなされたことは、この向こう、アシ川(小地名)渡るわけ。アシ川を出て。山城のあれは喜屋武村の領地になっておるけれども。区域は。このアシ川というところは昔は田んぼだったらしい。それで、その田んぼにね、田んぼに耕しに行かしたから。あの、弟はもう頭はいい、弟は頭ものすごく優れているし、力もあるし、やつぱし仕事の面ではあんまり、何と言うか、うぬぼれたみたいな人ではなかったかね。

それで、

「田んぼ耕して来なさい」と言つてね、弁当作つてうちからよこしたら、それで自分はね、自分はもう木陰に座っておつてね、鍬によ、鍬へ弁当を下げてね、「鍬やれやれ、お前やりなさい、やりなさい」と言つてね、自分はまた木陰で物を読んだり、寝たりしておつたらしい。それを見てね、兄貴が、

「この人間生かしておつたらね、どんなことになるかわからんから」と言つて、東辺名の向こうからね、弓の矢でよ、この弟を話して、語つてね。ここでもう当たつて、即死したから。これもまた保栄茂タルチーといつてね、このこつちの、今、崖はあるけれどね、これ、葬られていたというところ。

字伊原 玉城ハル

類話

字福地 殿内三吉